

シャローム



私たちは喜び、大いに喜び
神の栄光をたたえよう

(ヨハネの黙示録 19章7節)

2024年
復活祭号



日曜学校の子供たち作品

目次

—ともに支えあい、一歩ずつ前へ—	
復活祭メッセージ	・・・ 2 p
成人のお祝い	・・・ 5 p
日曜学校だより	・・・ 6 p
能登半島地震によせて	・・・ 7 p
小西神父のミサ説教(四旬節黙想会)	・・・ 8 p
教会の動き	・・・ 10 p

主のご復活 おめでとうございませう



とさせていただきます。何事も神様のみ旨に
任せて生きる喜びと勇気のために祈り
ましよう。

ましよう。

今年是小教区設立75周年という節目
の年を迎えます。今まで培ったことに
感謝し、子どもをはじめ若い方々もよ
り積極的に参加できる、より豊かな、お
互いに分かち合うことができる、教会
共同体を築きあげていきましょう。

トランナムフォン 神父

2024年の主のご復活のお喜びを
申し上げます。

ベタニアで再び命を与えられたラザ
ロの姉、マルタに対して、イエス様は
「あなたは、このことを信じるか。…信
じるなら、神の栄光を見ると言ったで
はないか。」(ヨハネ11章26〜40)と問い
かけておられました。この文脈で「この

こと」というのはイエス様こそが復活
であり、命であり、この信仰をもつ者は
その復活にもあずかることになるとい
うのです。この問いかけは、イエス様に
対する信仰の深さと神への信頼のあり
方、また、その信仰者への約束を意味す
るのです。

主イエス様こそが復活であり、命であ
ること、またその信仰者への神の約束を
再確信し、共同体全体が主において心
を一つにして、共に信仰の道を歩み続
けましよう。復活の光と喜びを感じる
わたしたちはその喜びをひとりぼっち
で抱くより、むしろ周りの人々にそれら
を分かち合うことをいつも心に留めな
がら主のご復活を祝うことができるよ
うに願います。

森智宏 神父

皆さん、主のご復活おめでとうござい
ます。復活した主がいつも皆さんとあり
ますようお祈りしております。

多くの聖堂には、十字架につけられた
イエスが掲げられています。叙階されて

ビジュキシャケール 神父

ご復活おめでとうございませう。

イエス様の復活は私たちの信仰の源
であり、私たちにも死後の復活がある
と信じられる出来事でもあります。イ
エス様は復活して弟子たちの前に現れ、
彼らと共に、聖霊の恵みを通して
弟子たちに前向きに生きる喜びと
勇気を与えてくださいました。日々の
生活の中で起こる様々な試練、特に人
から受ける誤解、差別的な言葉、その
他の耐え難い出来事が、私たちが神様
から遠ざけるのではなく、自分を成長
させ、清め、そして祈りに満ちた人生
へと導く大きな出来事となると考え
を切り替えることで大きな喜びを味わ
うことができるでしょう。イエス様の
復活は私たちにそのような勇気を与え

間もなく、司祭としてのどのように働くべきかを悩んでいた時にふと見た十字架のイエスが、手を広げ、「何も考えずついてきなさい」と言われているように感じました。その時に気分が晴れ、同時に自分の中で、イエスに従うことの希望が見えました。

主の十字架は私たちに、苦難だけではなく、その先に希望があることを示してください。それは私たちの聖堂

ボスコ マニマラ 神父

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、復活されたイエス様の豊かな祝福が皆さんにあることを祈ります。

復活祭は、私たちの霊的な救い主であるイエス様について、さまざまな方法で考えることを可能にします。例えば、私たちの救い主イエス様は、常に、私たちを人生の暗闇から救ってください。光として描写されています。さらに、イエス様は復活によって古い罪深い生活を捨て、恵みに満ちた新しい生活を始め

に掲げられている昇天のイエスのように、私たちの闇を照らす希望の光のように思えます。戦争や災害の絶えないうちでも、イエスに従うことで見える光、苦難の先の希望を生活の中で示す者となりましょう。そして私たち自身も、復活したイエスがいつも共にいてくださることを信じ、その先の希望を見失わないよう、祈り求めていきましょう。

るよう、私たちに教えられます。

復活祭は復活したイエス様に対する私たちの信仰と新しい命の祝日です。この教えは『使徒言行録』10章34〜43節と『ヨハネによる福音』(20章1〜9節)に象徴的に表現されています。この箇所を祈りのうちに思い返し、復活祭がイエス様における新しい命の祝日であることを学びましょう。

まず第一に、『使徒言行録』の中で、ペトロは復活したイエス様による新しい命を実際に体験した者として語っています。「私たちは、イエスがユダヤの地

方とエルサレムでなされたことすべてこの証人です。」「神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。」「預言者も皆、この方を信じる者は誰でもその名によって罪の赦しを受けられると証しています。」第二に、『ヨハネによる福音』の中で、復活の新しい命を経験したマグダラのマリアとシモン・ペトロともうひとりの弟子について、私たちは次の通り聞いています。「週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちにマグダラのマリアは墓に行った。……シモン・ペトロともうひとりの弟子も、墓に入って来て、見て、信じた。」

皆さん、このように、復活されたイエス様から新しい命の恵みをいただいた人たちに従いながら私たちも強い信仰という恵みのために祈りましょう。その時、私たちも復活の新しい命を経験することができると思います。私たち全員が罪を悔い改め、復活したイエス様が与えてくださる新しい命の恵みを経験できるように祈りましょう。

「主はまことに復活された
アレルヤー！」

ペトロ 千葉 充 神父 ※

ご復活、おめでとうございます。北海道では、残雪のなかにも春の到来を感じさせる季節を迎えています。

復活されたイエス様は、弟子たちに現れました。その手と脇腹に傷痕を残しておられます。

イエス様の受難と死は、全ての人を罪から救うためでした。イエス様に従った人々のためだけではなく、イエス様を死に追いやった人、裏切った人、見て見ぬふりをした人、自己のうちに留まり、頑なな人達の心を開くためでした。ここに神の愛の最たるものがあります。それは裁くためではなく、ありのままを受け入れ、御手の中に抱き、ひたすら愛で包み込み、その人が神に創造され「善し」とされた、あるべき状態へと生まれかわるためではないでしょうか。イエス様の受難と死を黙想するとき、こ

のような神の愛をイメージしています。そして復活によって、この愛が勝利したのです。復活した体に傷痕は残したままに。

司祭職とは、この十字架をともに担う使命を帯びるのだと考えていました。しかし、召命の道を振り返るとき、イエス様の十字架ではなく、私の十字架をイエス様が一緒に担ってくれているのだという感動が押し寄せてきます。だから、不安やおそれをそのままの御前に置き、喜びや感動は感謝のうちに捧げ、これからの司祭職を、キリストとともに、キリストのうちに、歩み続けてまいります。

復活された主の御許に喜び集いましょう。

感謝の内に、祈りつつ。

叙階おめでとう
ございます！
&
ありがとうございました！



※吉祥寺教会で宣教司牧実習を行っていた千葉助教は3月20日、札幌教区北一条教会で司祭に叙階されました。



「昨晚すごく不安になり聖堂で祈り、朝お世話になった神父様から電話があり、そのままのあなたでよいと言われました。これからのありのままの自分で司祭職をがんばっていきます」と、叙階したての千葉神父。叙階後は札幌教区内11の小教区の助任司祭として司牧にあたります。お世話になった吉祥寺教会共同体みんなの祈りで、司祭の道を歩む千葉神父をお支えしましょう。なお、吉祥寺教会での初ミサは5月19日に予定しています。

成人式おめでと〜ございます！

1月7日、10時半のミサ中に成人式のお祝いをしました。20歳になった彼らが、これからもイエス様の光に照らされた道を歩んでいきますように。

日曜学校の生徒だった時からずっといる吉祥寺教会で成人式ができてよかったです。当日はめったに着ないスーツを着てミサに出たのでとても緊張しました。今まで教会にいた時間を振り返ると日曜学校や今も時間があればやっている侍者の奉仕、青年会の活動と楽しいことがたくさんありました。

成人になったからと言って何かが変わった気がしません。でも、これからはいろんなことにチャレンジしようと思っています。

実は勉強はあまり好きではありませんでしたが、韓国語を勉強していた専門学校のプログラムで、一人で韓国に短期留学したら、語学も上達し、現地の大学に留学することが決まりました。

僕はまっすぐ司祭になりたいと子供の頃から思っていました。今は少し気持ちが変わり、いろんなことを経験して最終的に司祭になれたらいいなと考えるようになりました。韓国でミサに通っていた明洞大聖堂で司祭で俳優という方に出会ったことや、TV「こころのともじび」のMCをしていたレデンプトール会の司祭に出会ったことがきっかけでした。

僕の召命に関して親身なアドバイスをくださった荒田神父様に感謝しています。ヒザが取れ次第、韓国での生活が始まります。韓国でもミサや黙想会に参加するのでも、いつも祈りで吉祥寺教会と繋がっていられると思っています。

僕がまっすぐ司祭になりたいと子供の頃から思っていました。今は少し気持ちが変わり、いろんなことを経験して最終的に司祭になれたらいいなと考えるようになりました。韓国でミサに通っていた明洞大聖堂で司祭で俳優という方に出会ったことや、TV「こころのともじび」のMCをしていたレデンプトール会の司祭に出会ったことがきっかけでした。



↑ 森神父、フォン神父から祝福を受けるふたりの新成人

← 記念品として青年向けのカテキズム解説読本と御絵がプレゼントされました



今回、成人を吉祥寺教会で祝福していただくことができ、とてもうれしく思います。今までの20年間、教会では初聖体や堅信式をはじめ、たくさん思い出があります。これからは、その思い出を残せるように活動のお手伝いができたら良いなと思います。最後になりましたが、式に関わって下さった方々に感謝をいたします。ありがとうございました。



日曜学校だより



1年間をふりかえって



遠足

4/16 昭和記念公園



ミニバザー

10/15 手作りローソク



夏合宿

8/17~19 吉祥寺教会



クリスマス会

12/17



クリスマス会

今年は何回『4年ぶり』と言ったでしょうか。

待ちに待った4年ぶりのクリスマス会です。

大天使のお告げ～博士たちの訪問までの王道の聖劇と思いきや、ステージの上ではお告げと羊飼いの場面が交互に展開、またヘロデ王や宿屋の場面は貼り絵で再現、最後はみんなでお祝いの歌の合唱でフィナーレ。

「いつの間にかこんなに仕上げたの？」と神父さまもびっくりでした。



保護者会担当のジャンケン大会は、お菓子を巡って子どもも大人も楽しい笑顔になりました。

リーダーからはハンドベル演奏です。

恒例の♪あわてんぼうのサンタクロースを演奏中には本当のサンタが現れて子どもたちにプレゼントを手渡しました。



貼り絵も使って聖劇をしました。



リハーサル風景



リーダーによるハンドベル演奏



「サンタ語検定1級」!?!のリーダーが通訳

能登半島地震によせて

教会委員防災係

まずは元旦に発生した能登半島地震から被災者の方たちが一日も早く安全安心な暮らしを取り戻され、地域が復興されることを祈ります。

日本は地震が多い国であり、日々の生活の中で、その不安も常に背負っている私たちです。今回、私たちの吉祥寺教会の防災についても、皆で考えたいと思います。

聖堂は私たち信徒の拠り所ですが、1954年に建築されてから70年になり、その間何度か大規模な修繕を行って今日に至ります。

記録によると最初の修繕は73年に隣の火災で聖堂の一部が類焼したことにあります。この火災により大掛かりな修繕が必要でした。当時はいつそ全て建て直す方がよいのではという意見もあつたようですが、建築後間も無く、まだ使えるから活かすべきということで修復

することにとどまったようでした。

次に95年の阪神淡路大震災後に国の耐震基準に合わせ96年に大聖堂の耐震補強工事が施されました。5700万円を投じて行われた補強工事では梁を締め直し、屋根を替え、向こう数十年は安心とのことで、東日本大震災の際にも幸い問題はありませんでした。が、工事後もう28年が経過しています。信徒会館の耐震補強については、11年に大規模修繕工事を行っています。

大聖堂の最新の改修は、22年の照明器具交換でした。地震が発生したら天井から重い吊り下げ照明が落下するのではと心配していた信徒も多かったため全て撤去し、壁際の窓下に新たにLED照明を設置し、安心して祈りができる聖堂の雰囲気になりました。老朽化を消防署から指摘されている信徒会館の消火設備の工事は計画中です。

このように、これまで聖堂や信徒会館は出来る限り最新の基準や状況に合わせて改修してきました。一方で北広場のス

★《避難経路図》は聖堂入り口★に掲げられています。どうぞ一度ご確認ください



カウトホームは56年に教会の伝道館として作られた古い木造の建物を今もそのまま使用しています。武蔵野市は老朽化が進んでいる市内の建物の一つとして考えているようですが、聖堂と会館の老朽化が今後一層進んでいく中、総合的なことを視野に入れて新たな計画を進めていくことがこれからの課題と言えるでしょう。現在、主日の3回のミサには350人を超える信徒が集うこともあり、今後も定期的に避難訓練を行い、防災計画・避難経路の見直しも行う必要があります。そのために聖堂前にもより広々としたスペースを設けることが必要です。また、万が一災害が発生した時の避難経路や集合場所を各自が確認し、対応できるよう備え、心がけてくださることをお願いいたします。

小西神父のミサ説教

～四旬節黙想会～



3月3日、小西広志神父(フランシスコ会瀬田教会主任、東京教区シノドス担当)の指導で四旬節黙想会が行われました。ここでは当日のミサ説教を分話として配信いたします。黙想会講話はこちらのQRコードから教会HPをご覧ください。



フランシスコ会の小西でございます。

ご縁がありまして、今日は吉祥寺教会の黙想会を頼まれました。主任神父さまからお話があつて、簡単に二つ返事で引き受けましたが、ちよつと後悔しました。引き受けなければよかつたと思いました。

理由は二つです。一つは駅からここまで来る間にある大きな焼き鳥屋さんです。これが気になつて仕方がない。あの匂いにつられてしまう。朝は開いてないけど、昼から開店する。朝は意気揚々としてますが、きつと昼過ぎに帰る頃にはちよつと落ち込んでいます。これはいつものパターンだ。そうすると、あの匂いは大きな誘惑です。お酒をやめて6年目ですが、まだまだ呑み込み。それで今日は車で来ました。というか、

いつも車で移動しています。

もう一つの引き受けなければよかつたという理由は、いろいろ風の噂に聞くところによるとこちらの小教区共同体はもめていそうです。そういうところで話すのはイヤですね。教会がもめるのはいつの世も同じこと。だからそのことでは気にならない。今日の第2朗読のコリントの教会も、もめ

にもめた信仰の共同体だったので。むしろ、困るのは、もめている共同体は、信者の「聞く力」が落ちるのです。ですから、言葉尻をとらえて「ああ言つた」「こう言つた」と言い合いになる。そこに司祭も加わると言葉だけの応酬になつてしまつて、こちらの通い合いがなくなるわけです。「聞く力」が落ちると、今度は、み言葉を「聞く力」もてきめんに低下します。そうですよ。言葉尻だけをとりえるような共同体では、神さまの言葉である聖書の言葉を自分たちが置かれた現実や状況の中でとらえることができないうわけです。ちよつと難しい言い方すると、文脈に照らして、み言葉を味わうことができなくなります。そうすると、祈りもできなくなります。もめている共同体はいつもそうです。「聞く力」が落ちるので

す。落ちれば、信仰もレベルが落ちていきます。ひいては教会の共同体、小教区共同体が力を失つていくわけです。だいたい、そんな感じですよ。ですから、私も言葉尻をとらえられないために、ミサの説教と講話を全て書き起こしてきました。

「静聴ありがとうございます」といって、お茶を濁して黙想会の講話を終わるわけですが、だいたい分かりますよ、問題というか、チャレンジを抱えている共同体はこつちの話聞いてないですな。そうすると、また落ち込むわけです。いせやの誘惑に負けそうになるわけですね。それでも、司祭はみ言葉を伝えなければなりませんので、少しだけでも今日の二つの朗読を見ましよう。まず、**第一朗読**にある「わたしは熱情の神である(5節)という神さまの側からの自己表明は印象深いです。神さまは熱意の神、熱情の神です。人間に対して強い想いを抱いた神なのです。その熱情の故に、時には、ねたみのような感情もわき上がるそんな神です。それほどに神さまは人間を愛してください。今日の朗読にある十の掟はわたしを愛し、導き出してくださった神さまへの、わたしの側からの愛の応答となります。

小西神父のミサ説教(四旬節黙想会)

第二朗読の「神の力、神の知恵」(24節)は、信じない者にとつて愚かしいものに見える十字架のキリストこそが神の力であることを伝えていきます。イエスさまは神さまから愛されている「神の子」でした。愛されている人が、その愛に応えようとするときに、イエスさまにとつては十字架しかなかったのです。

福音の中の小さな言葉「熱意」は、イエスさまのおこころを表します。神さまは「熱情の神」です。イエスさまも同じく「熱意」の人です。動物や商人を追い出すイエスさまのおこころの中には神さまへの「熱意」が働いていたのです。それは、人間の思惑に汚れてしまった神殿を本来の姿へと変えるという「熱意」だけではなく、「自分が「しるし」となり、父なる神さまへの犠牲となる」という覚悟にも似た「熱意」です。こうして、新しい礼拝が始まります。

十字架は動物の犠牲にはよらない、人間の真の礼拝の始まりとなるのです。いわゆる「神殿の浄め」あるいは「宮清め」と呼ばれるお話が今日の福音です。

この話は他の福音書にも見られます。しかし、他の福音書ではイエスさまが十字架にあげられる直前の出来事とされているの

に対して『ヨハネによる福音書』では、イエスさまの活動の始まり、カナの婚礼のお話の後の出来事とされています。また、羊や牛を追い出したことにも言及されています。この点も他の福音書との違いです。

掟を守ることは大切なことです。しかし、もつと大切なのは掟を生きたることです。今日の第一朗読で示された十の掟(十戒)は、守るだけでなく、生きるためにあるのです。神さまとの関わり、人との関わりを生きた上で掟が必要なものとなります。しかし、いつの間にか掟を守ることだけに関心が向かっています。そして守っている人はプライドと誇りに満ち、守っていない人を裁きます。

今日の福音の場面は神殿です。神殿は神と人とが出会う場所です。しかし、イエスさまの時代は、神への犠牲を献げる、献げ物ばかりに人々の関心があつたようです。いつの間にか、神殿は献げ物の便宜を図る商売人であふれていました。

「熱情の神」から愛された「愛する子」であるイエス様もまた、熱情の方でした。動物や商人や両替商を神殿から追い出します。それは神の家である神殿が人間の思いに汚れてしま

うことが認められなかったからです。

しかし、それだけではありません。イエスさまが羊や牛や鳩を神殿から追い出すのは、イエスさま自身が犠牲となる覚悟が、おありになったからです。残念ですが、人々はイエスさまのおこころがわかりませんでした。というのも人々は神殿での動物を献げるという仕方以外の神さまへの真の礼拝がわからなかったし、それを想像することもできなかったからです。神殿の境内で牛や羊や鳩を売り、両替をするという人間の小賢しさにこだわってしまった、神の愚かさである十字架の犠牲がわからないのです。

イエスさまは新しい時代を始めます。それは「自分が「しるし」となる新しい礼拝の始まりです。イエスさまの十字架は神と人をつなぐ「しるし」なのです。同時に「熱情の神」の愛の「しるし」なのです。四旬節の後半、イエスさまの十字架を見つめる日々を過ごしましょう。

第一朗読：出エジプト記20章1-17節 第二朗読：コリントの信徒への手紙一 1章22-25節
福音朗読：ヨハネによる福音書2章13-25節(四旬節第三主日B年)



2023年 教会の動き

受洗者は幼児2名
成人21名でした

神様のもとに

召された方々

9日 (2月) マニコ
 31日 ヴエロニカ
 28日 マリア・マダレナ
 19日 マリア・ヒルジタ
 17日 エリザベト
 16日 アウグステイヌス
 15日 ヨハン
 13日 アグネス
 11日 ペトロ
 2日 (1月) ペトロ
 6日 マリア
 16日 ヨハネボスコ
 14日 ラファエル
 7日 マリア・モニカ
 6日 マリア・イルミナータ
 3日 (3月) ベルナルド

6日 (6月) ヨゼフ
 5日 モニカ
 24日 カタリナ
 15日 ペトロ
 12日 マリア・クリステナ
 10日 アントニオ
 21日 (5月) カタリナ
 22日 (4月) ペトロ
 16日 マリア
 16日 ヨハネボスコ
 14日 ラファエル
 7日 マリア・モニカ
 6日 マリア・イルミナータ
 3日 (3月) ベルナルド
 2日 (7月) ヨゼフ・ルカ
 14日 カタリナ
 14日 セシリア
 17日 マリア・クリステイ
 27日 ヨゼフ
 30日 使徒ヨハネ
 31日 (8月) 小きき花のテレジア
 4日 ヨハネ
 5日 マリア・ドメニカ
 6日 マリア・ルチア
 15日 マリア・エリザベト
 16日 マリア・マルガリタ
 27日 (9月) マリア・ウエロニカ
 3日 アンジェロ
 5日 アロイシオ
 10日 フランシスカザベリウス
 17日 (2022年5月) グレゴリオ
 17日 (10月) フランシスコサレジオ
 15日 アグネス
 23日 フランシスコサレジオ
 29日 (11月) マリア・モニカ
 1日 ヨハネ
 2日 マリア
 10日 クリステイナ
 13日 バウロ
 17日 (12月) マリア・アウグスタ
 12日 ヨゼフ
 26日 (2022年5月) グレゴリオ

◆教会日誌◆

(12月)
 10日 ヨゼフ会例会
 16日 地区割準備委員会(最終)
 17日 日曜学校終業式、クリスマス会
 24日 クリスマスイブミサ
 17時285名、18時半278名
 (日本語 予約制)
 20時270名(国際ミサ 予約不要)
 25日 クリスマスマミサ 9時、10時半
 合計320名(予約不要)
 31日 聖家族の祝日
 日曜日にあたり、通常の主日ミサ
 時間にミサ
 (2024年 1月)
 1月より第3月曜日の朝に神言会の意
 向で聖霊に捧げるミサ
 1日 神の母聖マリアミサ 10時半
 能登地震発生
 5日 初金ミサ 10時半
 6日 財務委員会
 7日 成人のお祝い 10時半ミサ
 日曜学校始業式
 8日 主の洗礼 6時45分ミサ
 75周年実行委員募集締切
 教会委員会
 14日 ヨゼフ会例会



- 21日 聖霊に捧げるミサ
- 21日 日曜学校
- サントニーニヨのお祝い
(フィリピンで敬われる聖なる幼子イエスの像を祝う祭り タガログ語ミサにて)
- 27日 枝の回収始まる(2月4日)
- 28日 みんなで聖堂お掃除日11時半
ヨゼフ会幹事会
- 31日 マリア会黙想会 77名参加
(指導 麴町聖イグナチオ教会 主任 高祖敏明神父)
- 3日 教会委員会
- 4日 日曜学校・典礼奉仕者連絡会
- 13日 マリア会定例会
- 14日 灰の水曜日 ミサ10時半
灰の授与 17時、17時半、18時
- 18日 日曜学校
- 21日 吉祥寺教会は1949年2月21日、小教区として認可された
みんなて聖堂お掃除日11時半
ヨゼフ会幹事会
- 2日 教会委員会
- 3日 日曜学校・四旬節黙想会(指導 小西広志神父 教区シノドス担当)
- 10日 ヨゼフ会例会



叙階の秘跡は
星野倫淳ともしろ助祭にも

2021年から2年間吉祥寺教会で実習期間を過ごした神学生「星野さん」。昨年春に助祭叙階、そして、この3月20日、広島教区世界平和記念聖堂(幟町教会)にて司祭に叙階されました。

岡山教会助任として司祭の道を歩み始める星野神父のためにも祈りを捧げましょう。

+++ 聖ウルスラ修道会東京修道院から S.中村敬子 S.辰巳邦子 S.松原雅代 +++

聖ウルスラ修道会東京修道院が吉祥寺に移転してから30年以上たちました。その間、吉祥寺教会の皆様には深く関わらせていただき、大変お世話になりました。日曜学校初聖体準備、青年会マリア会、教会受付、霊的同伴など、皆様には思い出深い懐かしいシスターたちの名前が浮かぶのではないのでしょうか。

そんな中で、現在の私たち3人が異動してきたのは2020年4月、コロナ禍の真ただ中でした。皆様との関わりは極めて限られた中で過ごすことになりましたが、コロナも減少し、やっと顔と顔を合わせてご挨拶できるようになった今、今度はお別れです。時の流れ、体調の変化は我を現実に戻してくれました。

召命の減少、高齢化を嘆くのではなく、今こそ新しい福音宣教への招きでしょう。アブラハムは高齢にもかかわらず、将来を約束してくれた神を信じて出発しました。神を信じること、洗礼の原点に立ち戻ること、新しい信仰の旅が始まります。

お元気な皆様、今度は仙台でお会いしましょう。お待ちしております。



2023~2024年度 キリスト教講座

曜日	時間	内容	担当者
第4日曜日	10:30~11:30	洗礼希望者入門講座	司祭団
毎週土曜日	15:30~16:30	主日の福音の勉強と分かち合い 主日の福音の解説	司祭団
第1土曜日	14:00~15:00	聖書入門1 共観福音書に親しむ	フォン神父
第2土曜日	14:00~15:00	聖書入門2 書簡と初代教会について学ぶ	森神父
第3土曜日	14:00~15:00	キリスト教について 洗礼後のフォローアップ勉強会	ビジュ神父
第1日曜日	14:00~14:45	英語で聖書を読み、黙想する会 Study and reflection of Sunday Readings	ボスコ神父

**主のご復活
おめでとうございます！**

◆ 2月21日に吉祥寺教会は小教区となつて75年になりました。
◆ 75周年記念ミサは10月20日(日)、ミサ中に堅信式も行われます。なお、洗礼式は9月8日(日)です。
◆ 第二回地区集会は4月から順番に行われます。開催日時はハガ



◆ 後藤神父近影
2月28日、神言修道会日本管区デインド管区長と、司祭団が後藤神父のお部屋を訪れ、皆で共同ミサを捧げました。

キなどでご確認の上、どうぞお気軽にご参加ください。
◆ シャロームは今号をもってしばらく休刊となります。これまで関わつて下さつた全ての方々に感謝いたします。時期、体制が整い再会できる日まで…。
(シャローム編集チーム A・信大や小やま)

■ 事務窓口受付時間 ■

火・水・金曜日
午前9時30分~午後5時
土曜日
午前10時~午後5時
日曜日
午前8時30分~午後3時30分

■ 売店開店時間 ■

土曜日 午後1時~午後5時
日曜日 午前9時~午後3時

※ 事務窓口、売店ともに、
月・木・祝日は定休日です。

■ ミサ時間 ■

土曜日 午後5時(主日のミサ)
日曜日(主日)午前9時/午前10時30分
第1日曜日(英語) 午後3時
第2日曜日(ベトナム語) 午後3時
第3日曜日(タガログ語又は英語)午後3時
火・水・木・金曜日 午前6時45分
第3月曜日(聖霊に捧げるミサ)
午前6時45分
第1金曜日(初金ミサ、聖体賛美式)
午前10時30分

■ ゆるしの秘跡 ■

土・日曜日の主日ミサ開始20分前からミサ開始までの時間、小聖堂にて。

■ 教会報 シャローム ■ NO.510 2024年3月31日発行
カトリック吉祥寺教会 教会委員会 広報

〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8
TEL 0422-44-0181/FAX 0422-44-0180 URL ▶ <https://svdtokyo.jp/>
教会維持献金振替口座 郵便振替:口座番号/00120-1-106084
加入者名/カトリック吉祥寺教会

